

【はじめに】

この実践は、昨年度の2月に行ったものである。この単元では、家族や自分でできることについて考え、自分の役割を積極的に考えたり、支えてくれる家族への感謝の気持ちをもったりすることができるようにすることである。その際、次のことを研究の柱として考え、実践を行った。

- ① 伝え合い交流する場を設定することで、気づきを共有する。

本単元は、学習指導要領の内容(2)「家庭と生活」だけではなく、(8)「生活や出来事の交流」と関連していると考えた。自分自身で体験したり活動したりして、感じたことや気付いたり分かったりしたこと、考えたことなどを伝え合い、交流することで自分の思いを深めたり、互いに理解し合ったりすることができると考えたからである。学習の様々な場面で、ペアや班、全体で交流する場を設定した。

- ② 互いに認め合う場を設定することで、自己肯定感を高める。

自分が取り組んできたことについて、家族の感想を聞き、友達と伝え合い、交流することで、充実感や自信をもつことができると考えた。仕事の発表会をそのような場となるよう設定した。

- ③ 子どもの学びをどのように評価していくか。

昨年度の生活科部会のテーマ「子どもが生き生きと学ぶ生活科～生き生きと学ぶ子どもを育てる指導と評価の在り方」を受けて、ワークシートや発表、つぶやきなどからどのような見取りができるか研究していく。

第2学年・内容(2) 家庭と生活

指導者 加納岩小学校 柳澤 晴子

「いっしょにいるとあんしん」

1. 単元の目標

家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たしたり、支えてくれる家族へ感謝の気持ちをもったりすることができるようにする。

2. 単元の概要

児童にとって、家庭は生活の場であり、自分を支えはぐくんでくれる家族がいるところである。しかし、あまりにも身近であるため、家族一人一人が家庭の内外の仕事や役割を果たすとともに、思いやりや愛情によって、互いに支え合い、生活していることの大切さを意識している児童は少ない。

本単元では、まず導入に家族の紹介をすることで家族に目を向けさせる。そして家族と過ごした思い出や家族がいてよかったと思うことを思い起こさせ、それを話したりカードに書いたりすることで、家族と共にいる喜びやありがたさを改めて実感させていきたい。そして、家庭内の仕事調べをし、家族に支えられ生活していることに気付かせていく。さらに、家族

の一員として自分にできることを考え、家庭での仕事を実践すること、自分でできることを増やしていくことによって、家族の喜びにつながることに気付かせていきたい。

実践する仕事の内容について、児童の思いや願いを大切にしていきたいと考えるが、無理なく、これからも継続していけるものに取り組ませていきたいと考える。また練習に挑戦することで、上達して継続していけるような仕事にも取り組ませていきたい。

本単元を通して、家族のために取り組もうとする意欲の向上や家族の存在のありがたさを改めて感じられることを期待している。

3. 単元の評価規準

○生活への関心・意欲・態度・・・・・・・・○家族の一員として、自分で決めた仕事に進んで取り組もうとしている。

○活動や体験についての思考・表現・・・・・・・・○家庭生活をよりよくするために取り組んできたことを振り返ったり、交流したりしている。

○身近な環境や自分についての気付き・・・・・・・・○家庭の大切さや自分の家族によって支えられていることに気付いている。

4. 指導と評価の計画

(1) 指導と評価の計画

小単元名	主な学習活動	評価規準	評価方法
1 いっしょにいるとあんなしん(4)	[小単元の目標] 家族の紹介をしたり家族と過ごした思い出を振り返ったりして、家の人と過ごす時間には、温かさやよさがあることに気付いている。		
	○家族に仕事や得意なことなどについてインタビューし、わかったことをクイズにして、友達に紹介する。 ○家族が笑顔でいる時のことを思い起こしたり、見つけたりする。 ○家族がいてよかったことや楽しかった思い出をカードにかいたり、友達に紹介したりする。	気：家族がにこにこしている時を振り返ったり見つけたりすることで、家の人と過ごす時間には、温かさやよさがあることに気付いている。 思：家の人とともに過ごす時間や思い出を振り返り、自分の思いを表現している。	・学習カード・発言 ・学習カード・発言・発表

<p>2 いつも ありがとう (3)</p>	<p>[小単元の目標] 家庭にはどんな仕事があるのか進んで調べ、家の人にしてもらっていることの多さに気づき、感謝することができるようにする。</p> <p>○家庭では、だれがどんな仕事をしているのか調べる。 ○調べたことを発表する。 ○家の人の支えがあって自分の生活があることに気づき、感謝の気持ちを表現する。</p>	<p>関：家庭にはどんな仕事があるのか、進んで調べようとしている。 思・気：家の人にしてもらっていることの多さに気づき、感謝の気持ちを表現している。</p>	<p>・学習カード ・手紙、作品など・発言</p>
<p>3 家ぞくのみなさんこれからよろしく (5)</p>	<p>[小単元の目標] 家族の一員として自分ができるような仕事を見つけ、進んで行うことができるようにする。</p> <p>○家族の一員としてできることは何かを話し合い、自分でできるような仕事を考える。 ○自分で決めた仕事に挑戦する。 ○取り組んだ仕事やわかったことを発表する。</p>	<p>関・気：自分も家族の一員であるということに気づき、自分ができることについて考えようとしている。 思：自分がしている仕事やわかったことを友達に紹介している。</p>	<p>・学習カード ・学習カード・発表</p>

(2) 評価規準設定上の配慮事項

第1小単元は、家族の紹介をしたり家族と過ごした思い出を振り返ったりすることで家族と過ごす時間には温かさや心地よさがあることに気づき、さらに自分の思いも表現することを目指している。2つの評価規準を設定した。

第2小単元は、家庭にはどんな仕事があるのか調べ、家族の支えがあって自分があることに気づき、家族への思いを表現する活動であるので、3つの評価規準を設定した。

第3小単元では、家族の一員として今度は自分ができるような仕事を見つけ、進んで行おうとし、仕事をしてみて感じたことを表現することから、3つの評価規準を設定した。

5. 指導の具体例

(1) 本時の目標

- 自分で取り組んだ仕事の様子や取り組んでわかったことを発表することができる。
(思考・表現)

(2) 本時の展開

展開	○主な学習活動	○指導上の留意点
5 つ か む	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までの学習をふり返る。 ○課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>家ぞくスマイル大作せんでしたしごとのことをはっぴょうしよう。</p> </div>	
3 5 発 表 す る	<ul style="list-style-type: none"> ○家で取り組んだ仕事について発表する。 ○発表した友達のすごいな、いいなと思ったことや真似してみたいこと、言っていきたいことなどを付箋に書く。 ○感想や質問を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○仕事に取り組んだ様子や思ったことなどを様々な方法で発表させる。(カード、実物投影機、動画、実演など) ○発表がスムーズにできない子どもには、インタビュー形式で答えさせる。 ○付箋に書く視点を明確にしておく。
5 ま と め る	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の発表について振り返り、感じたことや自分も取り組んでみたいと思ったことを発表する。 ○次時の予告を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の発表をもとに、いろいろな仕事があることや友達の頑張りに気づかせる。

(3) 本時の評価

【本時の評価規準 (活動や体験についての思考・表現)】

- 自分で取り組んだ仕事の様子や取り組んでわかったことを発表することができる。

【具体的な子どもの姿】

- ・今まで取り組んだ仕事について自分なりの方法で発表することができる。(発表)
- ・友達の発表を聞いて自分と比べたり、感想を発表したり書いたりすることができる。(発言・付箋)

6. 授業内容、子どもの姿、評価の実際

1 いっしょにいるとあんしん

最初に、単元全体の見通しがもてるように、この学習では、お家や家族について勉強していくことを伝えた。そして、今までよりもっとお家や家族のことを知ることができるといいこと、また顔や体格が違うように、家族の形態も一人一人違うことを話した。実際の家族を例に取り上げて話すのは難しいため、絵本を何冊か読み聞かせし、話していくことにした。年度当初の学年懇談会でも、生活科では、家庭や家族について学習する単元があることを話し、理解や協力を求めた。さらに単元に入る前に、学年便りでも知らせた。

小単元1の前半では、まず自分の家族に目を向けさせたかったので、家族のクイズを考えることで、自分の家族を紹介してもらった。家族全員のクイズを作るのではなく、一人だけである。家に一緒に住んでいる人に限定してしまうと、子どもの思いも限定してしまうと考え、おじいちゃんやおばあちゃんでもよいと話した。クイズを作ってみると、知っているようで、知らなかったという感想が多く聞こえてきた。どうしたいかと子どもたちに尋ねると、家に帰って聞いてみたい、よく考えてきたいと言うので、インタビューしてくるように話した。

クイズが仕上がり、子どもたちは、うれしそうに友達にクイズを出したり、答えを考えたりしていた。クイズを作る時や友達に問題を出す時の子どもたちの表情から、やはり家族が大好きという気持ちが伝わってきた。(ワークシート1)

次に家の人がにこにこしている時はどんな時かを考えたり見つけたりして、カードにまとめた。教室で考えた時には、「いつもお母さんは怒ってばかり」「仕事から帰ってくるとお父さんは疲れた顔をしている」と話す子どももいた。なかなか書けない子どももあり、教科書を開き、掲載されている写真を参考にして思い浮かぶようにした。そして、あらためて家の中で探してくるように話した。ここで、子どもの気持ちが乗ってくることを期待し、「家族には内緒で見つけよう」という約束をし、いつも通りの生活の中で、にこにこを探してこようと話した。一緒にお風呂に入った時、ご飯を食べた時、抱っこしてくれた時、など子どもたちのカードにはたくさんのにこにこが集まった。ペア、班ごとに報告会をして、家族のにこにこを見て、どんな気持ちがしたか、感想を発表し合った。うれしかった、ほっとした、自分もにこにこしてしまったなどの感想が出された。(ワークシート2)

小単元1の最後では、家族がいてよかったことや楽しかった思い出をカードにまとめた。これまで家族の紹介クイズやにこにこ探しで家族に目や思いを向けてきたので、進んでカードに書くことができた。ただ、家族とどこかに行つて楽しかったという表現が多く見られ、出掛けて何かをしたから楽しかったという表現で終わってしまい、家族と行ったからとか家族がいたからという思いまでにはいかない子どももいた。(ワークシート3)

2 いつもありがとう

小単元2では、「毎日の生活があること」を子どもたちに投げかけ、家族の生活に目を向けさせることにした。まず初めに、家の中では、だれがどんな仕事をしているのかを調べ、カード

にまとめた。家庭へも学習内容についてわかるように、学級通信でお知らせした。どんな仕事があるのか、いつやっているのか、やっている人、の3つの項目に書いていった。ご飯やお風呂のしたく、洗たく物を干したり、たたんだりすること、アイロンがけ、などたくさんの仕事があった。ここでも班で報告会をした。そして、仕事調べをしてわかったことや感想を出し合った。「こんなにいっぱいお仕事していたんだな」「お家の人にありがとうって言いたい」「仕事がたくさんあって大変だな」「何か仕事をしてあげたい」という感想があった。(ワークシート4)

この思いから、自然に、家族に感謝の気持ちを表現する活動へと移ることができた。ここで、家の人にしてもらっていることの多さに気づいた子どもたちに、どうやって思いを伝えようか、全体で話し合いをした。手紙を書く、似顔絵を描くなどの意見が出されたが、教科書を見ていた子どもたちから、「教科書のような肩たたき券を作りたい」「お仕事券をあげたい」という意見も出された。自分で考えたものでも教科書に載っているものと同じでも、気持ちを込めて一生懸命作ったものなら、家的人是喜んでくれると話し、子どもたちの作業を見守った。どの子どもも思い思いに手紙やカードを作り、中には休み時間も進んで作業に取り組む子どももいた。

一人一人の作品を見て、ここでも家族が好きで、大切に思っている様子が伺えた。早く持ち帰って手渡したいという子どもがたくさんおり、持ち帰ってよいと伝えた時には、大変うれしそうであった。渡した時のお家の人の様子を教えてくれる子どももいた。

3 家族のみなさん これからもよろしく

小単元3では、小単元2の仕事調べをした時に子どもから出された「何かお仕事をしたい」という意見を元に次の活動へと入った。今度はカードや手紙ではなく、お家の仕事で、できそうな仕事をするこゝで、ありがとうの気持ちを届けようという話になった。子どもたちの活動への意識が高まるように、このとりくみを作戦にして、作戦の名前を考えることにした。「お家の人ににこにこしてほしいから」という理由で「家族スマイル大作戦」に決まった。

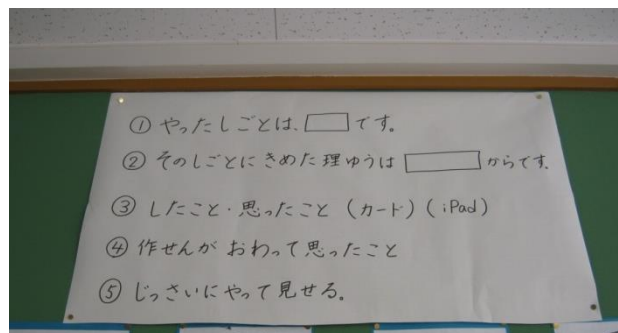
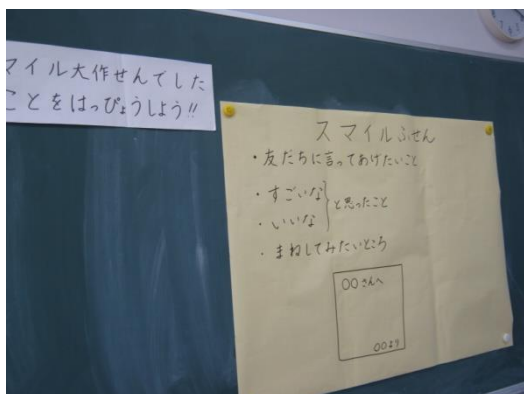
その後、自分でできそうな仕事を考えたが、単元でのとりくみで終わることなく、今後も継続していけるように「無理なくできるもの」「これからも続けられるもの」にしようと話した。また、3つまでならいくつでも取り組んでよいことにした。子どもの思いを見取りたかつたため、その仕事に決めた理由もカードに書かせた。そして、お家の人と相談してから決定させることにした。(ワークシート5) 仕事に取り組む期間は、10日間とした。学級通信で家庭へも知らせた。

さらに、作戦で取り組んだ仕事について、クラスで発表会を開くことを伝えた。発表は、カードに描かれた絵や写真を見せたり、実演やタブレット端末の動画を紹介したりするなど、様々な方法で発表してよいことを伝えた。タブレット端末は希望をとって、学校から貸し出した。10日間のとりくみの後、クラス全体で発表会を開いた。取り組んだ仕事の中から一つ選び、クラスの皆に見てもらう。発表する仕事を選ぶ時に、作戦の目的を思い出させ、その仕事をして一番喜んでもらったものやお家の人のがにこにこしてくれたものにしようと伝えた。(ワークシート6)

発表会では、内容を次の5つの事柄にした。

- ① やった仕事
- ② その仕事に決めた理由
- ③ したこと・思ったこと
- ④ 作戦が終わって思ったこと
- ⑤ 実際にやって見せる（実演、動画）

今まで頑張って取り組んできた仕事について、自信をもって発表できるよう、手立てとして発表者の前側の壁に発表内容を掲示することにした。



また、仕事の頑張りを友達同士で認め合い、今後の意欲や励みにつながるよう、一人一人の発表に対して、全員が付箋に一言メッセージを書いて、発表した友達に渡すことにした。付箋の名前を「スマイル付箋」にして、書く内容については、友達に言ってあげたいこと、発表を聞いてすごいな、いいなと思ったこと、真似してみたいことなどと説明した。

発表会の2回目が研究授業であった。生活科部会の先生方に参観していただいた。クラスの友達の他に、たくさんの先生方が観てくださり、子どもたちはとてもはりきって発表会に参加していた。

自分がこれまで頑張ってきた仕事を友達に伝え、友達に感想を言ったり付箋に書いたりしてもらい、発表を終えた子どもたちの表情は大変うれしそうであった。作戦のとりくみをお家の人に褒めてもらうこと、さらにクラスの友達に認めてもらうことで、今後も自信をもって取り組んでいけるといいと感じた。スマイル付箋を一枚一枚じっくり読む子どもたちのうれそそうな姿が大変心に残っている。

単元が終わって

あのねノートを使い、お家の仕事に取り組んだ様子を書いてほしいと話した。書いてきた子どもの作文を紹介し、他の子どもの意欲づけになるようにした。また、朝の会で「あさのおはなし」を子どもたちにしてもらっており、そこで、仕事に取り組んだ話をしてもらった。

評価に関わって

ワークシートに書かれた内容や発言、つぶやきなどを中心に評価していった。この単元を始める前に、学年間で単元を通じて、子どもたちにこうなってほしいという目指す子どもの姿に

ついて話し合った。家族への思いを持ってほしいという願いのもと活動していくことを確認した。仕事発表の中で「お母さんが大変そうだから、この仕事をこれからも続けていきたい」「お家の人がとても喜んでくれたのがうれしかった」と表現する子どももいた。家族への思いが表現できるように、活動内容や言葉かけを工夫したり、子どものつぶやきを広めたりしていった。

単元を通じて、子どもがどのように変容していったかを見取ることができるように、最初の段階で何らかの見取りをしていくことも必要であったと感じる。

7. 成果と課題

【研究授業】

- 「家族への思いを大切にしたい」「子どもたちのとりくみが単元での活動で終わることなく続けて行ってほしい」という教師の願いが感じられ、無理のない自然な単元構成、内容であった。
- 教師の思いがあって単元は作られ、子どもは変わっていく。教師と子どもたちとの温かいかわりがあったの授業であった。
- 家族や友達に褒められたり、付箋に言葉を書いたりしてもらい、子どもたちは大変うれしそうであった。
- 評価はその時間だけではなく、単元を通して子どもたちがどのように変容したのかを見取ることが必要である。時間や手間がかかるが、その子どもがどれだけ変わってきたのか、人としての成長が感じられるかという部分を評価していきたい。

ワークシート 1

かぞくをしようかいしよう

名前 ()

これから、かぞくしょうかいクイズを出します。わかった人は手をあげてください。

だいすきなところは	
しごとは	
とくいなことは	
とくちょうは	

さて、これはだれでしょう？こたえは () です。これでおわりです。

ワークシート 2

かぞくがにどこにこしている時ってどんな時？

名前 ()

○
○
○
○
○

かぞくには、ないしょでさがしてみよう！

ワークシート3

こんなこと 思ったよ
月 日 名前 ()

〇家でくいでいっしょにすごしてよかったなあと思ったことを書いてみよう。

思い出した今の気持ち顔をあらわしてみよう。➡



ワークシート4

名前 ()



大作せん!

〇どんなしごとをしたいか、3つ書いてみよう。

- _____
- _____
- _____

家族の人とそっだんしてきめてみよう。

〇そのしごとをしたい理ゆうを書いてみよう。

ワークシート5

大作せん
しょうすにできたできた

しごとをしたら、顔をかきましよう。

29日	30日	31日	2月1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

29日	30日	31日	2月1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

29日	30日	31日	2月1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

作せんがおわって、思ったことや考えたことを書いてみよう。

お家の人から（お子さんに向けて書いてください。）

ワークシート6

2年生56科「いっしょにこいるよ かんしん」

こんなしごとをしたよ

年 組 名前 ()

しごとをしている自分あげてかき、したことを思ったことかきましよう。

しごとの名前	月 日 曜日
<p>しごとを思ったこと</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p> <p>-----</p>	

